宅地遺跡周辺の古墳群と遺跡MAP

宅地遺跡は利根川右岸の自然堤防上に立地し、その南側に酒巻古墳群が展開しています。酒巻古墳群は、6世紀初頭～7世紀前半（約1500～1400年前）に造営されました。現時点で前方後円墳3基、円墳等20基が確認されています。

利根川を挟んだ群馬県邑楽郡千代田町赤岩には、酒巻古墳群と同時期の赤岩桜山古墳群が所在します。「酒巻」と「赤岩」は戦国時代には船渡として繋がっていたことが古文書からわかっています。その交流は、古墳時代まで遡る可能性もあります。

（国土地理院電子地形図を加工して作成）

令和７年度第４回　遺跡見学会資料　令和７年１２月１４日（日）

行田市 宅地遺跡（第7次）

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、国土交通省の利根川堤防強化対策事業に伴い、発掘調査を行っています。

宅地遺跡は、古墳時代から江戸時代にかけて断続的に営まれた集落遺跡です。今回の発掘調査により、主に江戸時代の井戸跡や平安時代の竪穴住居跡が確認されました。あわせて、古墳時代後期の遺物も多数出土しています。この遺跡が、付近に展開する酒巻古墳群と密接に関わる集落であったことが明らかとなりました。

主催　埼玉県教育委員会
公益財団法人
埼玉県埋蔵文化財調査事業団

後援　国土交通省 関東地方整備局
利根川上流河川事務所
行田市教育委員会

調査区全体図

第８号竪穴住居跡

この竪穴住居跡はカマドの両脇に棚状施設が設けられています。時期は９世紀後半頃です。棚状施設からは武蔵型甕と呼ばれるこの地域に多く見られる煮炊き用の土器が、潰れた状態で出土しました。他にも須恵器の長頸壺や糸を紡ぐ石製紡錘車などが出土しています。

第６号竪穴住居跡カマド

第６号竪穴住居跡は東辺から２つのカマドが見つかりました。左側のカマドは、石を骨組にして造られています。火を焚いた燃焼部から、土師器甕が割れた状態で出土しました。

右側のカマドのソデはなく、左側のカマドを造る時に解体されてしまったようです。

須恵器（竈・有蓋短脚高坏）

調査区の下層から古墳時代の須恵器（竈・有蓋短脚高坏）が出土しました。これらは酒巻古墳群と同時期の製品であり、古墳群が造営された頃の集落が下層に展開していた可能性があります。生産地は群馬県とみられます。

土師器（坩）

２点並んで土師器の坩が出土しました。坩は小型の壺のような器種で、儀礼行為などに使用されたとみられます。

須恵器（甕）

静岡県湖西窯跡産の須恵器甕の破片が散らばるように発見されました。７世紀代の製品で、酒巻古墳群の最終段階の時期に対応しています。

鍛冶炉跡

長軸約 1.0m、短軸約 0.6mの楕円形の鍛冶炉跡です。中から平安時代の土器も出土しました。通常はすぐ近くに廃滓坑がつくられますが、北側に見つかった廃滓坑はやや離れているので、一連のものかは分かりません。

土師器（壺）

和泉式と呼ばれる関東地方で古墳時代中期とされる土師器の壺です。酒巻古墳群より古く、犬塚古墳群のとやま古墳の時期と対応する可能性があります。

凡　例

- 古墳時代中期
- 古墳時代後期・飛鳥
- 古代（奈良・平安）
- 中世・近世・近代